

1. 件名：福島第一原子力発電所における循環注水冷却・滞留水等に係る定例会
2. 日時：令和3年1月22日（金）10時00分～11時00分
3. 場所：原子力規制庁 18階会議室
4. 出席者

原子力規制庁

原子力規制部 東京電力福島第一原子力発電所事故対策室

知見主任安全審査官、市森係員

宇野課長補佐、高松専門職（テレビ会議システムによる出席）

福島第一原子力規制事務所

松本原子力運転検査官、坂本原子力運転検査官（テレビ会議システムによる出席）

東京電力ホールディングス株式会社 福島第一廃炉推進カンパニー

福島第一原子力発電所 担当6名（テレビ会議システムによる出席）

5. 要旨

- 東京電力ホールディングス株式会社から、資料に基づき、主に以下の説明があった。
 - 中央制御室デジタルレコーダ取替工事概要について
 - ✓ 1～3号機の中央制御室に設置しているデジタルレコーダにRPV・PCV 温度計等の信号を接続し、免震重要棟にて遠隔監視が可能となっているが、本工事では、当該デジタルレコーダの定期取替え及び端子台・ケーブルの引替を行うこと。
 - ✓ 工事概要
 - ◇ 新設デジタルレコーダの配置場所の検討・設置後、既設から新設へ切替えを行うこと。
 - ◇ 切替作業時にパラメータが一時欠測するが、RPV・PCV 温度計、使用済燃料プール水位・温度計及び格納容器圧力計については、現在申請中の運転上の制限の見直しに係る実施計画の変更認可申請が認可されれば、温度評価及び代替計器による監視を行うことで実施計画を満足できるため、当該切替作業は、実施計画変更の施行後に行うこと。
 - ◇ 当該作業に伴うパラメータの一時欠測により温度評価等が必要になるため、これらに影響を及ぼす可能性のある他作業との工程調整が必要であること。
 - 3号機燃料取り出しの状況
 - ✓ これまでの経緯
 - ✓ ハンドル変形燃料としての取り扱いや吊り上げ可能にするために特別な対応を必要とする燃料は、現状25体であること。内訳は以下のとおり。
 - ◇ ハンドル変形燃料として扱い、輸送対応するものが17体。うち、吊り上げ可否未確認が1体。
 - ◇ ハンドル変形が無く、吊り上げ不可またはラック吊りピースとの干渉がある燃料が8体。
 - ✓ 燃料ラック吊りピースとの干渉解除
 - ◇ 吊りピースをシリンダ等により押し付けて曲げ戻し、燃料との干渉を解除する装置を準備していること。
 - ◇ 模擬ラックを用いたモックアップ試験を実施済みであり、今後、干渉解除の措置を実施予定であること。
 - ✓ 燃料とラック・ガレキとの干渉解除方法について
 - ◇ 圧縮空気を駆動源としたエアハンマーにより、燃料ラック側面を叩き

振動を与える振動付与装置について、模擬ラックを用いてモックアップ試験を実施していること。

- ◇ 燃料ラックを垂直に切断するラック切断装置のディスクソー及び水平方向にラックを押し広げる治具を製作済みであり、工場にて使用前の点検・動作確認を実施中であること。
 - ◇ 燃料上部に高圧の空気を吹きかけ燃料上部のガレキを除去する装置及びラック上部のガイド部を削除する装置について、装置の組立てを現在実施中であること。
 - ◇ 上記の装置を用い、燃料取り出しを早期に完了できるように、段階的に対応を実施していくこと。また、コンテンジェンシープランを事前に検討し、燃料取り出し完了の長期化のリスクを抑えていくこと。
- 1号機原子炉格納容器（PCV）圧力低下事象について（口頭説明のみ）
 - ✓ 1号機PCV内部調査のアクセスルート構築に向けた干渉物の調査のため、1月21日に隔離弁にカメラチャンバーを取り付けたところ、PCV圧力が低下（1.2kPa→0.7kPa）したが、カメラチャンバーを取り外したところ、PCV圧力が回復した。原因については現在調査中であること。
 - ✓ ダストモニタ、プラントパラメータ及びモニタリングポストの値に変動はなかったこと。

- 原子力規制庁は、上記説明を確認し、1号機PCV圧力低下事象の原因調査及び対策検討が進み次第説明することを求めた。

6. その他

資料：

- 中央制御室デジタルレコーダ取替工事概要について
- 3号機燃料取り出しの状況
- 循環注水冷却スケジュール
- 使用済燃料プール対策 スケジュール
- 燃料デブリ取り出し準備 スケジュール
- 汚染水対策スケジュール
- 水処理設備の運転状況、運転計画（2021年1月15日～2021年1月28日）
- 福島第一原子力発電所の滞留水の水位について（2021年1月15日～2021年1月21日）
- 福島第一原子力発電所における固体廃棄物について